

株 主 通 信

第 1 1 1 期 中 間 期

2022年4月1日－2022年9月30日

小松マテール株式会社

証券コード 3580



komatsumateRe

■ ■ ■ トップメッセージ

日頃のご支援に心より感謝申し上げます。当上半期は、コロナ禍に加えてウクライナ紛争や円安により、原燃料・資材価格が大きく高騰しました。当社グループではエネルギー対策、不良ロス削減、生産性向上や積極的な拡販策などに総力で取り組み、計画を上回る増収増益を果たすことができました。下半期に向けては決して楽観視できる事業環境にありませんが、引き続きグループ一丸となり業績向上に努めます。株主の皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

2022年11月
代表取締役社長

佐々木 久 衛



この半年を振り返ると、国内ではコロナ禍による行動制限が緩和されつつあるものの、原燃料・資材価格の高騰に伴い食料品の値上げが相次ぎ、いまだ消費者の節約志向が続いています。ただ、繊維関連では買い控えの反動もあり、概ね堅調な伸びを見せました。海外ではワクチン接種が進んだ欧州を中心に消費に回復傾向が見られます。

こうした多様な変化が続くなか、当社グループでは商品開発への取り組みを進め工場間・分野間の開発情報を共有し、生産・販売・技術開発が一体となり一層のシェア拡大をねらってまいりました。さらに、持続可能な社会の実現に向け地球環境にかかわる課題については、社会・顧客のニーズに応えるべく、優先的に取り組

みました。上記の事業活動のもとで当上半期は欧州ラグジュアリーブランド向けが順調に受注を伸ばしたほか、北米ではカジュアルウェアが牽引しました。加えて、中東向け民族衣装が大幅に回復しました。好調の要因には、これまで力を入れてきた高感性・高機能素材、環境配慮型素材の開発と市場投入の寄与も含まれています。

一方で、当社グループを取り巻く事業環境は、原燃料・資材価格の高騰によるコストのさらなる変動が予想されています。このようなコストアップは企業収益に悪影響を及ぼす要因となることから、省エネに加え低価格燃料への転換を進め、トータルコスト削減に努めました。加えて、新品種を投入することで高付加価値化を進め、販売価格への転嫁を図るなど、収益確保

のためのあらゆる施策を実行しました。

また、低温で早く染まる速染効果をもつ素材「WS™(ダブルエス)」の導入を加速させ、一層のコスト抑制に努めました。この「WS™」は生地加工時の染色時間を大幅に短縮し、染色加工に必要なエネルギーを削減し、CO₂の排出量を削減することができる特長があります。

今後は当社の強みを活かした商品の輸出拡大をさらに推し進め、資材ファブリックにおいては車輻分野の事業拡大に注力してまいります。

当社グループは、コロナ後も見据えて、今やるべきことに全力で取り組み、成果を積み上げつつ次の時代に備えます。引き続き株主の皆さまの変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

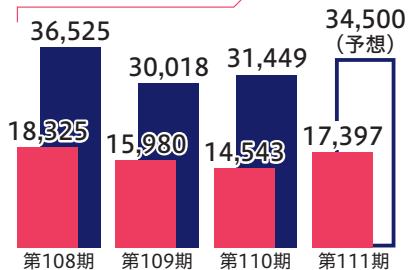
売上高

17,397百万円

(単位：百万円)

前年同期比

19.6%増



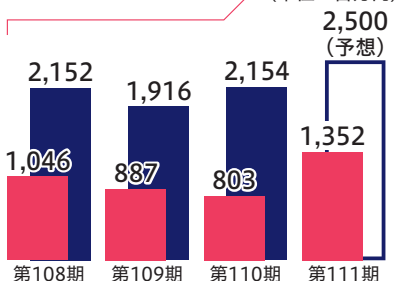
経常利益

1,352百万円

(単位：百万円)

前年同期比

68.4%増



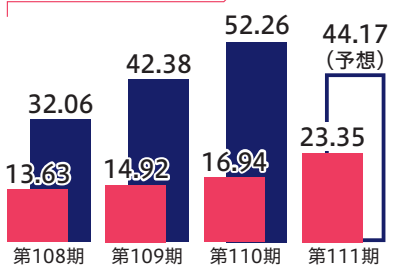
1株当たり四半期(当期)純利益

23.35円

(単位：円)

前年同期比

6.41円増



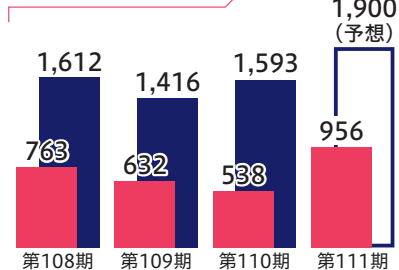
営業利益

956百万円

(単位：百万円)

前年同期比

77.5%増



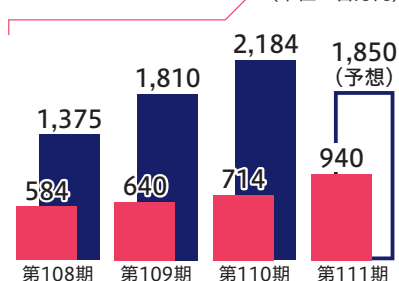
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

940百万円

(単位：百万円)

前年同期比

31.7%増



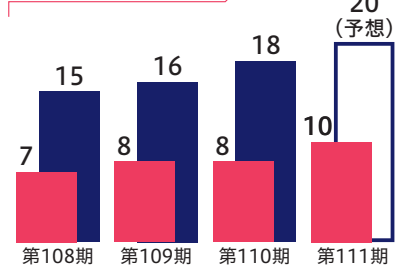
1株当たり配当金

10.0円

(単位：円)

前年同期比

2.0円増



■ ■ ■ セグメント別の概況

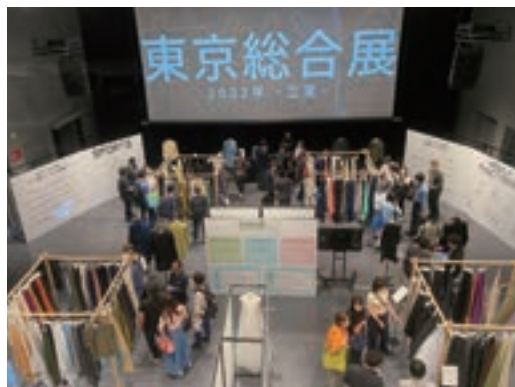
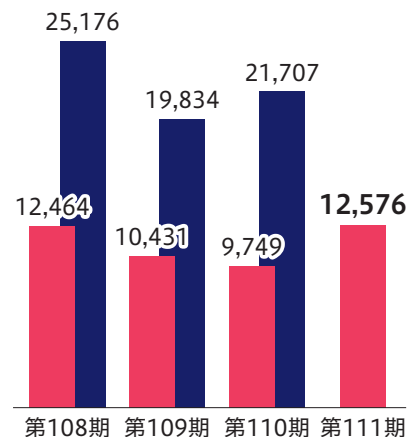
■ 衣料ファブリック部門

売上高

12,576百万円 前年同期比 29.0%増

衣料ファブリック部門に関しては、国内外において、高感性・高機能素材、環境配慮型素材の開発と市場導入を進めてまいりました。特に、北米向けカジュアルウェアが牽引したことに加え、中東向け民族衣装分野においては市場の回復とともに機能性商品を積極的に導入し、前期比大幅増となりました。また欧州および国内向けについても堅調に推移したことから、当部門全体として増収となりました。

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:百万円)



約2年半ぶりに東京総合展を開催

コロナ禍で控えていた対面での展示会を東京・渋谷で開催。「小松マテール・サステナビリティ・ビジョン」を土台とし、この2年半の間での新たな取り組みや開発を進めていた素材を手にとってご覧いただける機会となりました。



ファミリーマート

「はっ水パーカー」

撥水性と耐久性を備えた当社の「ダントツ撥水®」素材が株式会社ファミリーマートのオリジナルブランド「コンビニエンスウェア」に採用。「はっ水パーカー」として9月から全国で発売されています。



ラコステ

「ピケダウン・サードモデル」

株式会社ラコステ ジャパンの「ピケダウン・サードモデル」の表地に当社素材が採用されました。高機能透湿膜を使用したニット生地、優れた耐水性と透湿性を持ち合わせています。

■ 資材ファブリック部門

売上高

3,777百万円

前年同期比 1.7%増

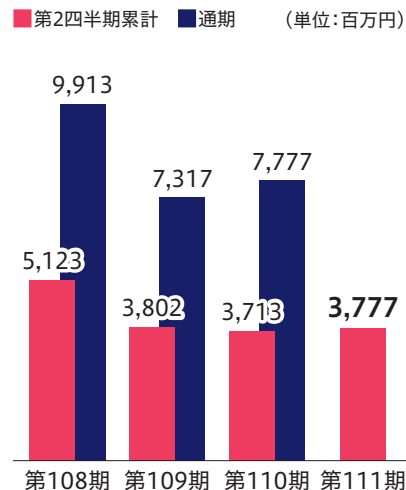
資材ファブリック部門については、リビングおよび車輦分野が落ち込みをみせたものの、電材および化粧品用途を中心とした生活関連資材分野が収益をカバーしたことにより、当部門全体としては、微増となりました。



横浜市の地域貢献施設に「カボコーマ・ストランドロッド」が採用

2022年9月に竣工した施設「MURASAKI PENGUIN PROJECT TOTSUKA」の耐震補強材として、当社の熱可塑性炭素繊維複合材料「カボコーマ・ストランドロッド」が屋根部に採用されました。

建築家の隈研吾氏が「積み木」をコンセプトに設計を手掛け、耐震性とデザイン性を兼ね備えた建物です。



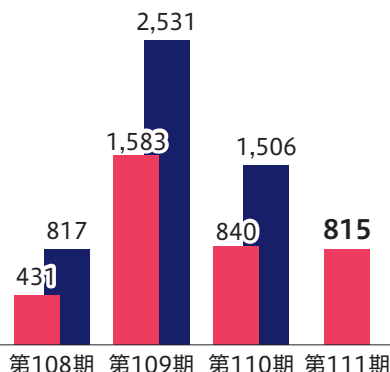
■ 製品部門

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:百万円)

売上高

815百万円

前年同期比
3.0%減



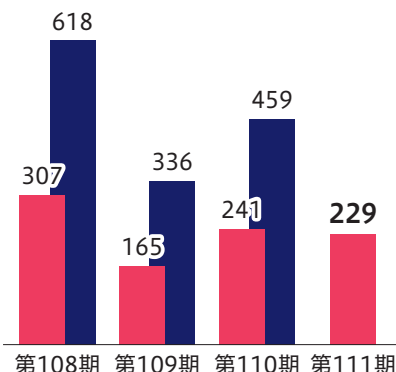
■ その他の事業

■ 第2四半期累計 ■ 通期 (単位:百万円)

売上高

229百万円

前年同期比
5.0%減



※セグメント別の売上高の集計方法を第109期より変更しております。

■ ■ ■ 小松マテールグループ SDGsへの取り組み

私たちが暮らす社会は、環境問題(気候変動)・貧困・紛争・人権問題・新型コロナウイルス感染症など多くの課題を抱えています。

小松マテールグループは、1999年に地球環境の保全に向けた「環境管理宣言」を策定し、環境保全と環境づくりに努めてきました。その後、2020年には国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)に沿って、グループが目指す取り組みを5つの項目に整理・統合した『小松マテール・サステナビリティ・ビジョン』を策定し、事業を通じて持続可能なより良い社会の実現に取り組んでいます。ここでは、当社のSDGsへの取り組みをご紹介します。

小松マテール・サステナビリティ・ビジョン



I 気候変動対策



II 循環型社会づくりへの貢献



III 人々の感動の創造



IV 防災・減災への取り組み






V 地域貢献と社員の成長



紹介動画

今回は3つの項目を選び最新の取り組みをご紹介します。

目的	重点項目	達成目標(2030年度)
I 気候変動対策 	(1) 工場での省エネ、生産体制の効率化を推進 (2) 従来より製造時のエネルギー量が少ない製品を開発・拡販	・温室効果ガス(CO ₂ 重量原単位)を30%削減
II 循環型社会づくりへの貢献 	【廃棄物の削減】 (1) バイオ製剤による排水処理汚泥の減容化 (2) 繊維くずのアップサイクル (3) 加工方法の変更による廃棄物削減	・廃棄物(廃棄物量原単位)を70%削減 ・廃棄物のリサイクル率(埋立処理削減)を98%以上に引き上げ
V 地域貢献と社員の成長 	(1) 地場産業の活性化、地域の社会的問題の解決 (2) 地域住民、社員が参画するSDGsイベントの実施 (3) 社員の健康維持・増進 (4) 職場での安全教育の徹底、見てわかる安全な職場づくりの推進	

<SDGsとは> SDGsは、Sustainable Development Goalsの略で「持続可能な開発目標」と呼ばれる。2015年の国連サミットですべての加盟国が合意し、2030年までに「だれ一人取り残さない」社会を目指して、17の目標と169のターゲットを設定している。

<サステナビリティとは> 「持続可能性」と訳される。「維持する」の意味を持つsustainが語源で、自然環境に悪影響を与えず、人間の活動が維持・持ちこたえることを表す。

具体的な取り組み

■ 染色時の環境負荷を大幅に低減する素材「WS™」を展開

当社は、糸づくりの工程で物理的作用を変化させた、低温で早く染まる速染効果を持つ素材「WS™(ダブルエス)」を開発し、事業化を進めてまいりました。糸の分子配列にあえて緩みや隙間を生じさせ、染料が入りやすい構造にすることで、生地染色時間・使用するエネルギーを削減し、CO₂の排出量を減らすことができます。

ポリエステル糸においては、ファッション、スポーツ・アウトドア用途やインテリア用途へも展開し、すでに世界的にも展開を拡大しています。さらに環境への負荷を低減しようと開発を続けてきた結果、ナイロン糸においても速染効果を持たせる加工技術を確立し、さらなる分野の拡大を目指します。



■ 国内最大級のファッションの祭典で当社素材が公式エコバッグに採用

「Rakuten Fashion Week TOKYO 2023S/S」への協賛の一環として、イベントの公式オリジナルエコバッグに当社の素材が採用されました。素材には、当社のマスクインナーの端切れが用いられ、同イベントでSDGsレポーターを務める女優・タレントの長濱ねるさんがデザインを担当。エコで機能面にも考慮したオリジナルバッグが誕生しました。

この取り組みは、循環型の社会づくりへの貢献の一環として、当社の環境に配慮したサステナブルなモノづくりを知っていただける機会ともなりました。



■ 「のみSDGsパートナー」として地域社会に貢献

当社が本社を置く石川県能美市は、“暮らしやすさを日本一、実感できるまち”を目指し、地域全体でSDGsに取り組んでいます。当社はこの取り組みに賛同し「のみSDGsパートナー」として、持続可能な地域社会づくりに2022年8月より参加しました。今後はSDGsの視点で「能美ブランドの発信」「持続可能で創造的なモノづくり」「カーボンニュートラルの実現」「働きやすい環境づくり」「地域コミュニティとの交流」など20の活動目標に取り組み、地域社会の課題解決への貢献を目指します。

SDGs 未来都市

能の美市

NOMI, ISHIKAWA, JAPAN

したいこと、能美市だったら叶うかも



のみSDGsホームページでも当社の取り組みが紹介されています。



株式情報

発行済株式総数	株主数
43,140,999株	4,443名

所有者別分布状況

個人その他 6,909千株 (16.02%)	金融機関 13,806千株 (32.00%)	その他の法人 12,264千株 (28.43%)	外国法人等 6,894千株 (15.98%)
	証券会社 282千株(0.65%)	自己株式 2,983千株(6.92%)	

大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,803	9.47%
東レ株式会社	3,749	9.33%
THE SFP VALUE REALIZATION MASTER FUND LTD.	2,891	7.20%
株式会社北國銀行	2,111	5.25%
小松マテール松栄会	1,651	4.11%
日本生命保険相互会社	1,284	3.19%
株式会社北陸銀行	1,263	3.14%
三井住友信託銀行株式会社	1,230	3.06%
THE CHASE MANHATTAN BANK, N.A. LONDON SPECIAL OMNIBUS SECS LENDING ACCOUNT	934	2.32%
三谷産業株式会社	892	2.22%

※持株比率は自己株式を控除して計算しております。

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所
大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先
0120-782-031
URL
<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>
1単元の株式の数
100株

公告の方法
電子公告(当社ウェブサイトに掲載)
<https://www.komatsumatere.co.jp/ir/investor/>
※事故やその他やむを得ない事由が生じた場合、日本経済新聞に掲載して行います。

上場証券取引所
東京証券取引所 プライム市場

住所変更、配当金受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増等について株主様が口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。また、証券会社に口座を開設されていない株主様は、特別口座の口座管理機関の上記電話照会先にお申し出ください。なお、単元未満株式の買取・買増の当社にかかる手数料はいずれも無料となっております。

会社情報

役員 2022年9月30日現在

代表取締役社長 佐々木久衛	取締役 大西 洋	監査役 米澤 和洋
専務取締役 中山 大輔	取締役 山下 修二	監査役 根上 健正
常務取締役 松尾 千洋	取締役 佐々木康次	監査役 坂下 清司
常務取締役 小川 直人	取締役 堀内 節郎	
取締役 中村 重之		

【表紙の写真】

小松マテール本社を上空から撮影した様子。建物の屋上緑化や一部路面には、工場の排水処理過程で発生する産業廃棄物(余剰汚泥)をリサイクルした、環境に優しい発泡セラミックス「グリーンピズ」を使用しています。優れた断熱性・通気性・透水性・保水性が特長です。当社はこれからも素材の開発を通し、“人と繊維と自然とが共生できる住みよい地球環境づくり”の実現に向け取り組んでゆきます。

会社の概況

商号	小松マテール株式会社	大阪営業所	大阪府大阪市北区梅田2丁目2番22号 (ハービスENTオフィスタワー8階)
設立年月日	1943年10月8日	東京営業所	東京都中央区銀座3丁目10番6号 (マルチ銀座第3ビル4階)
資本金	46億8,042万円	北陸営業所	石川県能美市浜町ヌ167番地 (小松マテール株式会社 本社2階)
本社	〒929-0124 石川県能美市浜町ヌ167番地		
本社製造部	同上		
美川製造部	石川県白山市鹿島町1号7番地1		

グループ会社

小松美特科(蘇州)貿易有限公司	中国・江蘇省蘇州市	インターリンク金沢株式会社	石川県金沢市
株式会社コマクソン	石川県能美市	吉田産業株式会社	福井県鯖江市
株式会社コマツインターリンク	石川県能美市	株式会社セイホウ	栃木県足利市

小松マテール株式会社

<https://www.komatsumatere.co.jp/>

